令和３年度

学校だより
令和４年１月３１日

# さつきが丘　２月号

第３４５号

## なかよくするために

学校長　金子　博美

一年で最も寒さの厳しい時期ですが、梅の蕾も膨らみ始め、春の便りが待ち遠しいです。

学校生活の中で密を避けると、友達となかよくかかわる場面が減ってしまっているのではないかと心配になることがあります。子どもたちは、友達となかよくできているでしょうか。

私が担任する学級では、いつも、「じゃんけんは、頭の上でする」というルールを作っていました。はじめたのは、二度目の一年担任の時です。その学級の子どもたちは、じゃんけんをするたびにもめていました。あまりに続くので、一度その様子をよく見てみました。すると、「じゃんけん、ぽん！」といって手を勢いよく出すとすぐに引っ込めてしまい、何を出したのかお互いにわからないのです。そして我先にと「勝った！」と大きな声で言い、「俺が勝った」「ちがう！俺の勝ちだもん！」と言い合いになりました。互いに何を出したかなんて確かめることはできません。じゃんけんをするたびにもめるわけがよく分かりました。すぐに、近くにいる子どもたちに、「先生とじゃんけんしよう。」と誘いました。「いいよ」「やる、やる」とたくさんの子が集まりました。私は左手の人差し指を口の前に立てて、「しずかにね。手を挙げて・・・」と言って右手を頭の上までまっすぐに伸ばしました。子どもたちも真似をします。「小さい声でいくよ。せーの、最初はグー、じゃんけん、ぽん」。ひそひそ声でじゃんけんをするなんて初めてだったと思います。グーやパーを思い思いに出したところで、すかさず「手はそのままです。」と言うとみんな手を挙げたままピタッと止まりました。そして「先生に負けた人は、座りましょう。」と言うと勝った子だけが残りました。「ほら、なかよくできたね。」「じゃんけんは、出した手と手を見るんだよ。」「上に挙げると見やすいね。」と話すと子どもたちは「うん、うん。」と大きく頷き、みんな笑顔でした。

物事には、それぞれ当たり前のルールや方法があることを、１年生の担任をすると痛感します。鬼ごっこやドッジボールも学級のみんなで初めてする時は、「今までどんなルールでしたか。」と必ず尋ねます。そしてその場でのルールを作ってから始めます。ルールを変えたり作ったりすることを学級生活の中で繰り返していくと、子どもたちも、遊ぶ前に相談することはなかよくするために必要なことだと気付いていきます。そういう機会や経験を積み重ねていくことも、今、学校に求められている気がしています。すすんでなかよくしようとする子を育てるために、学校生活の中でのかかわりの場を大切にしていきたいと考えます。

その子たちが６年生になったある日のこと、教室前を通りかかると、「おかわりほしい人！」と言う大きな声がしました。廊下側の窓から覗いてみると、高く高く腕を伸ばして「最初はグー、じゃんけん、ぽん！」と。思わずくすっと笑ってしまいました。

*前回のクイズの答え、ジュースにするなどはどうでしょう。*
*子どもたちの中でも一番多かった答えです。*